古代人の信仰の場？

牛石遺跡の配石遺構その全容を確認!!

厚原ほ場整備に伴って、昭和五十四年から始った牛石遺跡の発掘は、さきごろの調査で、二万平方メートル近い規模の、全国でも屈指といわれる祭祀配石（さいしはいせき）遺構群を確認しました。牛石遺跡で発見された「配石遺構」は、直径五十メートルの環状に巡るもので、構造は、直径四～五メートルの小サークル状の配石を、四カ所に配し、その間を一～二列の帯状の配石で連結しています。

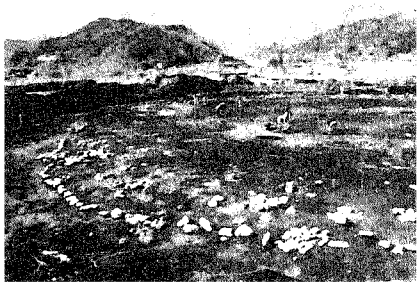
また、この環状列石の内側にはこれに沿って、約一～二メートルほどの集石が、三十基配されています。

この配石遺構は、出土した土器から、縄文時代中期末葉（今から約四千年前）のものであることが判明しました。

この頃の自然条件は、気温は寒冷化するし、富士山を含めた火山の活動が活発になるということで生活のためには、かなり厳しいものがあったと思われます。

このような悪環境のなかで、人々がなんの目的で、大規模な「配石遺構」を造営したかは、大きなナゾに包まれています。

「配石遺構」の性格については現在、墓地、祭祀信仰の場、などといった説が出されていますが、はっきりしたことは分っていません。



しかし墓地として考えた場合には、単に、墓域と墓地で死者の埋葬だけにあったのではなく、死者の再生祈願という意味も含んでいたものと考えてよいでしょう。

また、祭祀信仰の場として考えれば、食糧源であった動・植物の収獲増などを祈念する信仰の場、火山活動が活発化した富士山に対する畏敬と火山活動の鎮静を祈念する場として考えることもできます。

この牛石遺跡は、厚原ほ場整備が再開されることに伴なって、再び地中に埋れてしまいます。

暖かな春の日ざしに誘われるままに、一度古代人が築いた歴史の跡を見学してみてはいかがでしょうか。

消防団に知事表彰旗が授与される

去る３月７日県民会館大ホールで行なわれた、第33回消防記念日式典において、都留市消防団は防災思想の普及、消防施設の整備、その他災害防ぎょに関する対策の実施等その成績特に優秀により、山梨県知事から表彰旗及び表彰状が授与されました。

都留市史編纂のお知らせ

このたび、当市では、郷土の歴史を「都留市史」として編纂することになりました。これは、我が郷土都留市を中心とした史料を探求することによって、各時代の文化、政治、住民生活などの歴史的変遷の過程を日本全体の歴史のなかにとらえて、市史として編纂刊行する事業でございます。本事業は、将来の郷土発展のために大きな示唆となり、意義深いものと考えます。近年、土地開発事業の進展に伴い、昔の郷土の自然のただずまいは、急速に変貌しつつあり公害等の影響から、季節ごとに目にふれた動植物が消滅してゆく現実に接し、私達は過去の郷土に対し、強い郷愁をおぼえます。また生活の近代化や、過疎化現象などによって、祖先が創造した郷土独自の風俗、習慣、かずかずの年中行事などが、次の世代に受け継がれることなく失われてゆくのはさびしいかぎりです。好むと好まざるとにかかわらず、われわれの郷土は年ごとに移り変っております。そのため、昔を尋ねる手がかりとなる史料や事物が消えつつあるのはまぎれもない事実であります。

そこで、郷土の生成発展の足跡をたどり、厳粛な人間生活の記録を解明する数多くの史実を集め、これを後世に遺すことは、現代に生きる者の責務でありますし、又その機会は、今をおいてないと思われます。これが市史編纂を計画するにいたった契機であります。

どうか、市民のための市史を目指して計画されます「都留市史」の編纂事業に対し、古文書、その他の史（資）料の提供など面で、市民の皆様方の全面的なご協力をお願い申しあげます。

なお市史についてのご意見、情報等ございましたら、つぎにご連絡くださるようお願いします。

都留市上谷一丁目一番一号
教育委員会市史編纂担当
☎③一一一一　内線二一三

都留市の気象

	56年2月	55年2月	10年間の平均
最高気温	(16) 18.1°C	(27) 13.6°C	17.2°C
最低気温	(27) −11.0°C	(17) −7.6°C	−8.6°C
平均気温	1.8°C	1.3°C	2.3°C
降水日数	1mm以上4日	1mm以上2日	1mm以上7日
降水量	37.0mm	14.5mm	70.0mm
平均湿度	74%	62%	65%

都留市消防署調べ（　）はその日